

口の中に食べ物が残る？

よく熱を出す
肺炎になりやすい

口から食べ物
がこぼれてしま

これらの症状は、すべて口から食べる機能(摂食・嚥下機能)に障害があるサインです。口から食べることは、目で見て、口に取り込んで、咀嚼して、舌で咽に送り込み、飲み込む、すべての過程のことを意味しています。この過程のどこかに障害があることを、摂食・嚥下障害といいます。

食事中よくむせる

経口摂取してないけど
食べさせてあげたいな

物が食べにくい？

私たちの施設では、この取り組みの為に外部専門医「内科医・歯科医師・歯科衛生士等」との連携により訪問診療を取り入れ実践しております。

施設で、嚥下評価・嚥下リハビリが行えます

◆摂食障害とは？

摂食・嚥下は、食べ物を認識してから、口を經由して胃の中へ送り込む一連の動作の事で、どこかの段階で障害されることを、摂食嚥下障害といいます。



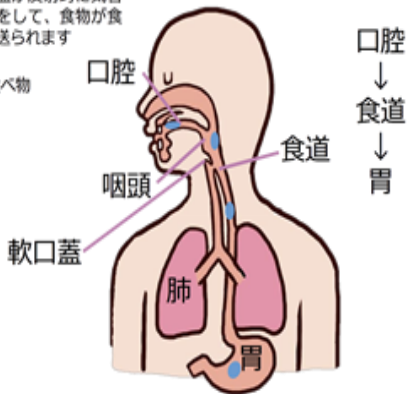
嚥下のしくみ

通常食べ物は口から咽頭を通過して食道から胃へ運ばれますが、食べ物が誤って気管に入ってしまうことがあります。この現象を「誤嚥」といいます。誤嚥は窒息や肺炎を招く恐れがあり、注意が必要です。

正常な嚥下

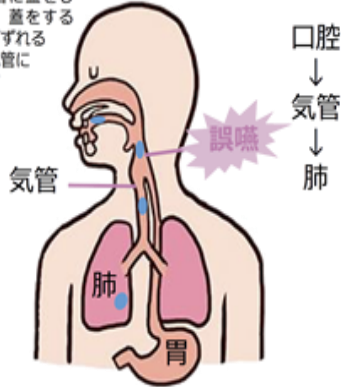
軟口蓋が反射的に気管に蓋をして、食物が食道に送られます

● 食べ物



誤嚥

軟口蓋が気管に蓋をしなかったり、蓋をするタイミングがずれると、食物が気管に入り込みます



危険! むせない誤嚥

誤嚥しても、むせてせきばらいをすることによって気管から食べ物を排出することができます。しかし、食物や唾液を誤嚥しているのにむせない場合があります。自覚症状がなく、肺炎を起こしてから気づくことがあるため、危険です。



摂食嚥下障害を起こすと、飲食ができないことによる栄養状態が低下する低栄養や脱水を引き起こしたり、食べ物が気道に入ることによる誤嚥性肺炎、窒息や飲食ができないことによる“食べる楽しみ”を失ってしまうなどが、問題となります。

◆摂食嚥下障害のケア

口腔内には、虫歯や歯周病に関わる細菌(病原性微生物)がたくさん存在しています。細菌が、唾液とともに気管や肺に流れ込んでしまうと、誤嚥性肺炎を引き起こす原因となります。肺炎は、日本人の死因の第4位ですが、

その理由として

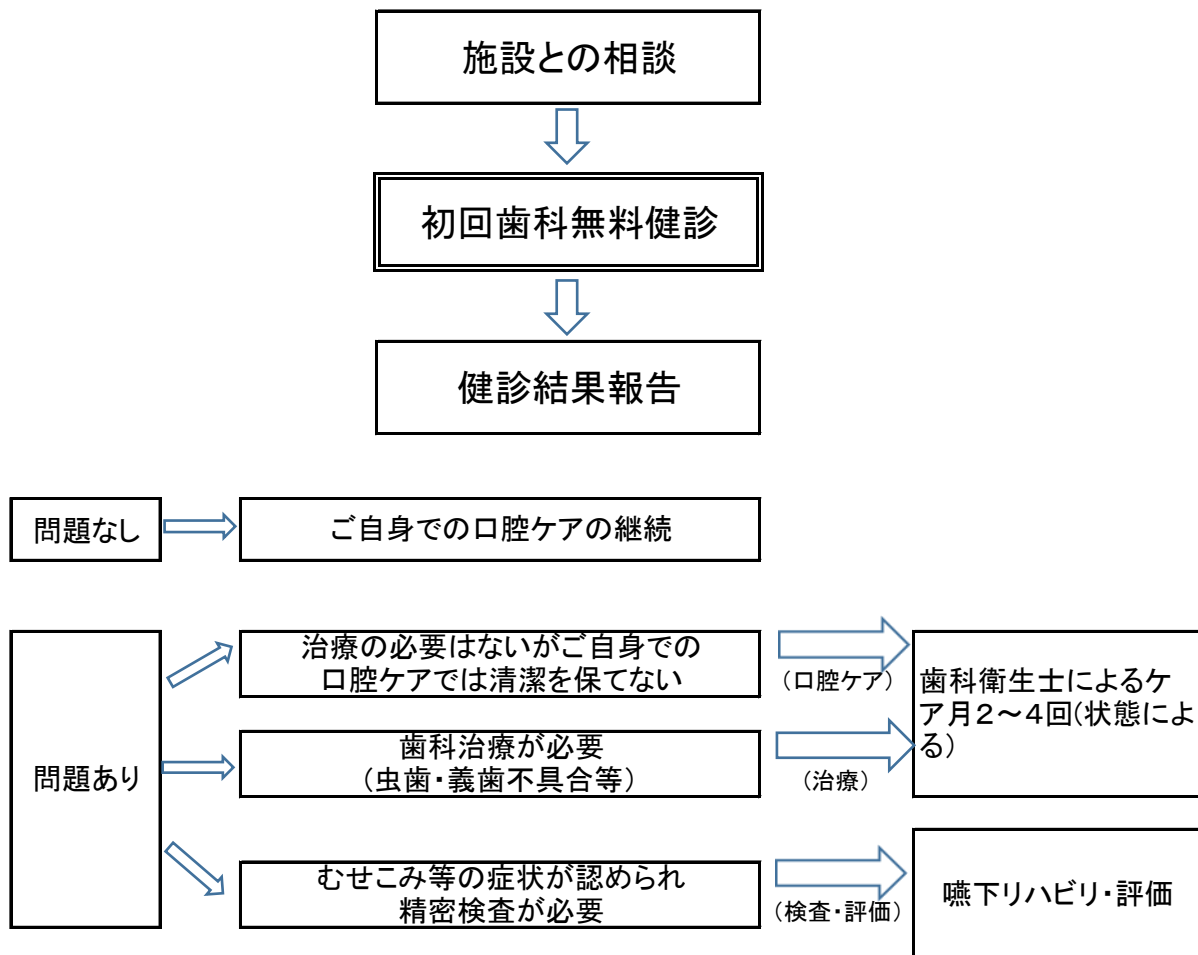
- ・加齢とともに、誤嚥をしやすくなる
 - ・誤嚥したときに、それを咳とともに排出する力が弱くなる
 - ・免疫力が低下し、肺炎を起こしやすくなる
- などがあげられます。

摂食嚥下障害がある方への口腔ケアは、単に口腔内を清潔にするだけでなく、口腔内を刺激することで、感覚を取り戻す可能性もあります。

摂食嚥下障害がある方へのケアとして重要なのが、食事の介助です。

食物をかみ砕くことや、“むせこみ”によって必要量の食事をとることが出来なくなってしまうます。

嚥下口腔リハビリの流れ



- ・日常の口腔ケアは、ご自身で行えない方へは施設の職員がお手伝いいたします。
- ・日常のケアを行っている中で、定期的に専門医による口腔ケアを併用し、施設職員が個々に合ったケアの留意点を指導のもと実施していきます。

※初回健診は無料で行っておりますが、継続される場合は医療費が発生致します。

【施設の中でこれらの歯科受診を受ける事が出来ます】

注: 特別な治療が必要になった場合には施設では行えません。